

# ふれあい合宿特集 2

## 熊中だより

ぼくは、このふれあい合宿で集団生活では何が大事かということ学びました。

一つ目は、時間を守ることです。朝起きる時間をおくれてしまえば、そのあとの布団の片付けなどを予定より早く行わなければなりません。このように、その日その時の時間を守らなければ、その後に計画している時間までずらさないといけなくなるということ学びました。

二つ目は、計画している活動などは全力で取り組むということです。ぼく達はキャンドルの集いを失敗に終わらせてしまいました。なぜ失敗に終わったかというと、学年全員が全力でその活動に取り組んでいなかったからです。どんな活動でも、絶対に手を抜いたりしてはいけないということ学びました。

1年3組 高瀬 泰斗

「ゆれ光る 九十八個の 希望の火」

これは私がキャンドルの集いの時に、頭に浮かんだ句だ。たくさんの小さな火は友達の数を示す。私のまわりには支えてくれる仲間がこんなにいるんだと思うと、嬉しくてどこかほっとした。

ふれあい合宿で楽しかったのは鱒淵ダムウォークだ。16キロも歩けたのは、私の周りにたくさんの友だちがいるからだと思う。お弁当は友だちと話しながらか食べた。トカゲもさわれたから楽しかった。

協力することの大切さ、集団行動の難しさ この二つを三日間で学んだ。キャンドルの集いでは皆が心を一つにできていなかったから失敗したんじゃないかと思う。これからは協力することの大切さを考えながら、自分のできることをしていこうと思う。

1年1組 中原 瑠衣菜



校長室通信

第 5 号

北九州市立熊西中学校  
校長 安部朋恵

### 余談 ふれあい合宿出発前

校長室にいと、グラウンドで体育の授業や部活動をしている声や、昇降口付近で話している声が聞こえます。ふれあい合宿初日の朝、こんな声が聞こえてきました。

「シャツ 入れろ」

私は室内にいたので、その場面を見ることはできなかったのですが、夏用の体操服の上衣シャツをズボンに入れなまま登校してきた1年生がいて、それを見た上級生がきちんとして服装をするように促したのだろうと想像しました。

注意した上級生と注意された1年生が知り合いだったかどうかはわかりません。けれども、上級生の口調は強引さを感じさせず、それでいて注意された側に「きちんとしなくては」という気持ちを起こさせるような、凜としたものでした。

全校生徒が集まる場では、常に模範となって下級生を導いている2年生・3年生。直接教える場面でも、きりっと引き締まった態度で臨むその言動が頼もしく思えました。

